



「熱性けいれん」について

A. 知っておきたい主な知識

1) 熱性けいれんとは.

「中枢神経系以外の感染による発熱に伴って生じた全身性のけいれん」です。
はっきりした原因は不明です。発熱が誘因となります。

2) けいれんを発症させる因子

～多くの因子がけいれんを起こしやすくします。～

熱性けいれんのある小児の家族の人の中で、30-50%に熱性けいれんの経験があり、遺伝性のあることが知られています。6か月から3歳頃までに多く見られ、脳の未熟性が関係するようです。性別では男児に多く、妊娠中や新生児期に何らかの異常があった場合は気をつけましょう。

3) けいれんと発熱との時間的關係

現時点では不明ですが、発熱の高い値や発熱の上昇スピードが関係しているようです。

4) 原因となる感染症

ウイルス感染、特に麻疹・突発性発疹・インフルエンザA2など。

B. 発作時の判断と家庭での一般的な処置.

1) けいれんが短時間で止まり、意識も直ちに回復したような場合は

けいれんの再発を予防する薬を投与してもらい、帰宅してもよいでしょう。

2) けいれんが短時間で反復したり、意識障害が続く場合は救急受診し

て入院になります。20分以上けいれんが続く場合は「けいれん重積」と思われるので入院が必要です。

3) 処置：時計で持続時間を確認し、衣服をゆるめ楽にする。口腔内に

箸やスプーンなどを入れない。誤飲を予防する。必要なら救急受診。

C. 抗けいれん剤継続投与の適応

～てんかんへの移行が3%ぐらいあり、この危険性のある小児が適応になります。

- 1) 神経学的異常を有するもの：精神遅滞・脳性麻痺・脳障害
- 2) けいれんの特徴：15分以上けいれんが続く。焦点性けいれんで、左右差がある。けいれんの後で、意識障害や手足の麻痺など神経学的異常を残したものの。
- 3) 家族歴：家族・親類に無熱性けいれん(+)
- 4) 頻回にけいれんを繰り返す。(24時間以内に2-3回繰り返す)
- 5) けいれん初発時の年齢：1歳未満。6歳以上。
- 6) けいれん直前後の発熱が37.5 未満。

投与期間は最低2-3年間、継続投与する必要があります。薬により、てんかんになるのを予防します。

D. 熱性けいれんへの理解

- 1) けいれんは、ほとんど2-3分で止まるのでけいれんによる死亡の心配はほとんどありません。
- 2) 短いけいれん発作では、てんかん・脳障害・知能障害などの心配はほとんどありません。
- 3) 発熱時には、水分摂取を十分にしておき、けいれん予防のシロップや坐薬を使用してください。
- 4) 継続投与が必要ならば、一定期間は十分に内服して、けいれんが頻回に起こらないように予防をしましょう。
- 5) 予防接種は一年間できません。特に希望される場合は、当科での個別接種になりますのでご相談ください。
- 6) 普通の生活でかまいません。過度な制限をせずに、適度の運動と毎日の健康チェック(体温・食欲・活発性)をしっかりと行ってください。